

2013年3月度(1) 建築音響研究会 開催報告

3月度の研究会は、オープン間近のフェスティバルホールの見学会を中心に、大阪にて開催致しました。午前中には、事業主側からホールの基本コンセプトなど概要をご説明頂いた後、下層にホールの大空間を有する高層建物の建築設計、ホールの騒音防止設計及び室内音響設計について、それぞれご講演を頂きました。また午後にはホール・舞台・楽屋などの諸施設を見学させて頂きました。詳しいご説明とともに細部まで案内して頂き、とても充実した見学会となりました。

■ 開催概要

日 時 平成 25 年 3 月 8 日 (金) 10:30~16:00

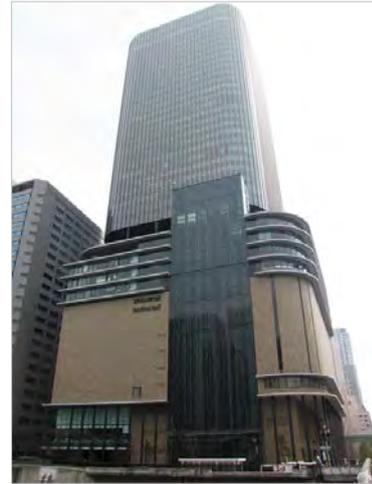
共 催 日本建築学会近畿支部音環境部会

場 所

【午前：講演会】 キャンパスポート大阪 ルーム D・E
大阪市北区梅田 1-2-2-400-4 階

【午後：見学会】 フェスティバルホール
大阪市北区中之島 2-3-18

参加者 45名



■ 発表題目および内容概要（フェスティバルホール）

1. フェスティバルホール ～伝統の継承と進化～

○渡辺章（朝日新聞社）、西部宏志（フェスティバルホール）

【概要】2008年12月に建て替えのために、一時閉館していたフェスティバルホールは、2013年4月に新ホールとして開館する。「天井から音が降ってくる」と称された明瞭な音の響きや幅30メートルの広い舞台間口など旧ホールの特徴を継承しつつ、最新設備を備えたあらゆるジャンルに対応する「音楽の殿堂」として新しくスタートする。本稿では新ホールの特徴と、新ホールを形づくる上での礎となった旧ホールの伝統と歴史の一端を述べた。

2. 中之島フェスティバルタワーの設計

○江副敏史（日建設計）

【概要】新しいフェスティバルタワーは中之島の環境と調和させ、その風景とフェスティバルホールの記憶を受け継ぐデザインとした。2700席のフェスティバルホールと朝日新聞大阪本社、高さ200mの超高層オフィスをもっと組み合わせるといふ課題に対し、オフィスとホールを縦に積み重ね、オフィス中央部の柱をホールで外周に広げるメガトラス構造を採用した。アクティブスキンやエコボイドなどの環境技術、中間層免震による国内屈指の耐震性能を有し、新ホールは旧ホールの特徴を継承しつつ、舞台設備・音響における機能面のさらなる進化を遂げるなど、最新の設計技術をこの建築に込めた。

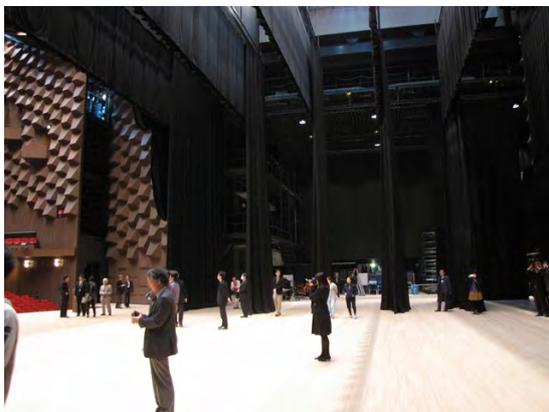
3. フェスティバルホールの音響設計

○福地智子、服部暢彦、池田覚（永田音響設計）、中川浩一（日建設計）

【概要】2013年4月にオープンする新しいフェスティバルホールは、旧フェスティバルホールのあった新朝日

ビルディング跡地に再整備された。新ホールは高層複合施設中之島フェスティバルタワーの低層部に配置され、旧ホール同様にプロセニウム型舞台を持つ2700席の大型のホールである。クラシックコンサートから、オペラ、バレエ、ミュージカル、ポピュラーコンサート等の各種の催し物に対応した多目的ホールであるが、伝統ある大阪国際フェスティバルの会場としての性格を重視し、また、本プロジェクトのテーマであった「継承と進化」を踏まえ、音響計画を実施してきた。ここでは、騒音防止および室内音響に関する音響計画とその音響特性についての概要を報告した。

■ 講演会(午前)および見学会(午後)の様子



☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合先：

担当幹事 (<http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html>) までご連絡下さい。